

第14回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

- 1 日 時 平成30年10月10日（水）午前10時50分～午前11時55分
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席者 委員長 副市長 友山 宏一
委 員 企画部長 加藤 保夫、総務部長 田雑 弘章、こども支援部長
鳥山 政之、永瀬 久、小林 由利、浦嶋 健二
所管課 保育幼稚園課長 鈴木 浩昭、主幹 上野 順一
事務局 企画課長 玉井 栄治、主幹 亀田 一生、副主幹 齋藤 謙次郎

4 欠席者 なし

5 対象施設 入間市立黒須保育所

6 議 事

議 題

(1) 応募者によるプレゼンテーション

プレゼンに先立ち事務局から、次の説明を行った。

応募法人の資格要件のうち暴力団関係者の有無について、事務局において県警に照会したところ、応募のあった法人について、「該当は無い」との回答を得ている。

プレゼンについて、1法人あたり45分とする。時間配分は、プレゼン25分、質疑応答20分とする。仮にプレゼンが20分で終了した場合には、質疑応答を5分増やし、25分とする。質疑応答が早く終了した場合、45分に達していなくてもその時点で終了とする。

採点等については、5～1点の5段階で採点を行い、審査票は、10月15日までに企画課へ提出願いたい。

社会福祉法人 樹人会 ※非公募であるため1法人のみ

応募書類を基に入間市立黒須保育所に関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委 員 : 親の都合もあるかとは思いますが、あきらかに具合が悪い子を預ける方がいる。そのような時の保育所の対応についてどのように考えているのか。

応募者 : 熱が37度5分近くあったり、朝来てすぐ寝てしまう乳児や、様子がおかしい児童がいる場合には、様子を伝えるために直接保護者に連絡し、さらに具合が悪くなるようであればすぐ電話することを伝えるなど、連絡を密に取る対応をしている。

委員：例えば、具合が悪い子を別の部屋に避難させるなどの対応を取ることはできないか。

応募者：インフルエンザの可能性が高い等の場合には、保健用ベッドが用意されているため、状況により分けることもある。

委員：育児休業を取る職員もいると思うが、取得状況と代替職員の考え方について教えて欲しい。

また、近接する豊岡保育園と連携を図りながら様々な事業を展開していることがわかった。公立保育所を運営するにあたって心がけていることや配慮していることがあれば教えて欲しい。

応募者：育児休業について、ずいぶん前から産前産後休暇や育児休業を取る職員がおり、多いときは年間3人程度いる。今年は1人、来年は2人が取得を予定しており、育児休業は取るよう、また、取らせるよう長年指導している。代替職員については、クラス担当ではないフリーの職員をあらかじめ多めに配置することで、問題なく対応している。

また、公立であっても私立であっても樹人会として同じ考えのもとに保育を実施している。

委員：黒須保育所にあたる職員の人数構成を教えて欲しい。また、豊岡保育園と黒須保育所の連携との説明があったが、人事交流は行われているのか。

応募者：給食調理員も含め正職員が7名、パート職員が10名の合計17名の体制である。

また、人事交流については、平成元年に管理運営を受託した際、豊岡保育園の職員が黒須保育所に異動になったが、それ以降については豊岡保育園が古く伝統的なものが受け継がれてきたこともあり、人事交流は行われてはいない。ただし、年2回から3回合同職員会議を開催し、交流を続けている。

委員：1法人2施設の特性を活かし、イベント等を合同で開催し、子どもたちの交流を図るとともに、経費面でも削減が図られていることがわかった。第三者評価において、評価機関から改善を求められたポイントとして、緊急連絡体制の整備、施設整備の役割分担、個人情報保護の取組の3点を指摘されていたが、取組について再度確認したい。

応募者：第三者評価において不備な点の指摘を受け、法令的な部分について漏れなく整備を行った。実際、個人情報保護についても研修等は実施してきたが、改正等により変わってきた部分について欠けていたため、今年度中に新たに整備しなおした。

委員：貸借対照表内訳書を見ると、退職給付引当資産や退職給付引当金の科目について、本部や豊岡保育園には計上されておらず、黒須保育所のみ計上されている。しか

し、拠点ごとの収支計算書を見ると、どこの施設においても退職共済掛金が支出されており、加入している退職共済制度の記載もある。これはどういうことか。

応募者：黒須保育所に計上されている退職給付引当金については、以前加入していた県の共済に係るものであり、現在の退職給付の支出については医療福祉機構が主催する退職共済制度のものであり、会計指針に基づいて処理している。

委員：一般的に保育士の問題点として、自宅に持ち帰る仕事が多いとか昼休みが取りにくいなどと聞くが黒須保育所における時間外の状況について教えて欲しい。
また、就業規則について、法改正に十分に対応しきれていないため、改善をお願いしたい。

応募者：就業規則の改正については、現在検討しているところである。

保育士の業務は限りなく多く、大きな行事があるときなどは時間外勤務があり年間30時間くらいである。保育の業務は健康でなければ勤まらないため、それを一番重点に考え、負担をかけないように時間配分をし残業とならないようにしている。

委員：園でできない仕事を家に持ち帰り、その分サービス残業になることを他の保育所でよく聞くがそれはしないのか。

応募者：原則、そういうことはしてはいけないと指導はしている。若い職員が大きな紙袋で出勤する姿を見ることがあるが、その際は話を聞き指導している。

委員：平成元年から30年間管理運営をしてきてご苦労もあったかと思うが、今後さらに5年間指定管理を受けたいとのことで、提案では「強く・正しく・温かく」を目標としたいとのことだが具体的に取組んでいきたいことを含め意気込みをお願いしたい。

応募者：今までもそうであったが子どもたち一人ひとりに向き合い配慮し、それぞれの子の特性を見ることができ細かい保育をしていきたい。また、介護施設や小学校との交流について、現在行っている以上に連携を密にして、様々な交流を進めていきたい。また、保護者と保育所との係わりについて、現在でも取組んではいるが、まだまだ不足している点もあることから、保護者との連携を密にし色々見ていただいたり、ご意見をいただいたりすることで、質の高い保育を実現したい。

事務局：以上で質疑応答を終了とさせていただきます。

(2) 保育幼稚園課からの意見感想

委員長：所管課として意見、感想があればお願いしたい。

所管課：社会福祉法人樹人会は、管理委託制度から換算すると30年間に渡り、事故もな

く安定した施設運営を継続し、保護者や地域との交流や連携に努めた施設運営を心掛けており、社会福祉法人樹人会の運営による黒須保育所は、地域に根ざした施設となっている。

プレゼンテーションでは、これまでの実績を活かし、「強く・正しく・温かく」の保育目標に沿って、更に保育の質の向上が期待できる声を聴けたと思っている。今後、更なる保育の発展が期待できると感じた。

7 その他

審査票の提出と次回の日程について

10月15日までに審査票を企画課に提出していただきたい。次回は10月17日に開催する。

以上